

## 小中一貫教育について

### 1 小中一貫教育について

#### (1) 中1ギャップの解消

小学校5・6から教科担任制を行い、体育・数学・理科・英語と中学校所属の町費の講師の先生が、TTの形で授業に関わってくださっているため、中学生になっても小学校で教わっていた顔なじみの先生が教えてくれる状態。そこで、子どもたちにとっても大きなギャップにならない。子どもたちも、中学校へ来たから不登校になるという子は少ない。ただ不登校0ではなく、小学校から不登校だった児童は引き続きというケースはある。

また、教師の側からも、子どもたちと人間関係が築けていて、例えば小学校時代にいじめや生徒指導上の問題があったことなども中学校の先生が把握しており、児童理解ができている。

さらに生活面でのよさとしては、中学生は、「小学生が見ているよ」と言えば、恥ずかしくない行動をとろうと努力する姿が見られる。また、小学生には、中学生の掃除をする模範的な姿を見て、自分の将来の姿をイメージすることができる。

異学年での交流も小中学校間で行なう機会が多く、荒っぽい中学生も小学生の前では読み聞かせなどを優しく頑張る姿が見られる

#### (2) マイナス面は、

スタート時に、生まれ変わって頑張ろうというものが出しにくい状況にある。緊張感も足りない状況。友達との人間関係を新たに作り直すという切り替えの節目としては薄い。それが影響してなのかは分からないが、学習面での伸びがあまり期待したほどではない。

(これは一貫教育のせいなのかは分からない) 9年間同じ環境にいるが、ある教育者は、長い間同じ環境にいると農業の連作障害のように学習面での伸びが期待出来ない。と言っていた。(これも根拠に乏しいが)

#### (3) その他

教育目標は、小中の校長が何度か一緒になって小中統一したものにした。また、小中合同の教務会を定期的を開いたり、小中合同の職員会も年に数回開いた。

職員会での主な内容は、生徒指導の問題等をお互いに共有したり教科学習について、共通理解を図ったりした。

卒業式は、6年生で行い、教育課程は現行の学習指導要領に従った。

学年割については、一応1・2・3・4年生が基礎期、5・6・7年生が活用期(ここで、小中の教科担任制が行なわれた。)そして8・9年生が発展期と計画されていた。※6年生で卒業式を行い、7年生で担任も中学校の担任に変わった。

### 2 小中一貫教育で考えられる具体的内容

(1) 9年間の一貫した教育目標の設置

小中の校長の連携が必要。

(2) 9年間を通した新たなカリキュラムの設定

小学校からの英語教育、プログラミング学習を意識した小学校に置ける技術科の創設など、既存の教科そのもの見直し。既存の学習指導要領に縛られない教育。

△独自の教科を設定した場合、私立などではよいが、転出入のある転校等に耐えられない。新たなカリキュラムを設定する場合も、既存の学習指導要領にある程度沿ったものであることが必要か。

(3) 9年間の学年段階の柔軟な区切りの設定

6 - 3制から4 - 3 - 2制や5 - 4制など

△学年割は可能だが、授業内容は現行の学習指導要領に準じる必要がある。転校等の問題のため。

※小中一貫校が言われるようになった背景には、もちろん少子化による施設建設・維持・管理が大きな問題であろうが、表向きでは中1ギャップの解消と昭和20年に設定された6-3制が、子どもの育ちに合わなくなっているということの2点がある。

(4) 小中教員の乗り入れ指導の実施

中学校の先生が小学校の6年生の授業に参加。小学校の先生が中学校の1年生の授業に参加。

(5) 小学校における教科担任制の実施

小学校5・6年から教科担任制を実施する。

△市教委で、専科教員の増員が必要となる。

※佐久穂小では現在、免許のある学習支援員5名の他、専科教員2名（県費）、専科教員7名（町費）がいる。

(6) 合同職員会、合同授業研究会の実施。

実施内容に合わせて、小中合同での職員会が必要になってくる。

授業研究会も乗り入れ授業などの状況によって必要になってくる。

△教師の多忙感が出る。

(7) 行事への参加

音楽会、運動会等の行事に部分的に参加。

小学校の音楽会に中学校の1クラスが参加・発表するなど。

運動会にも小中合同種目に参加するなど。

△教師の多忙感、授業時数の確保。

(参考) 義務教育学校について

- ・義務教育学校の場合、校長1名、で小中学校を運営する。現在のシステムからして、人事の問題等で、かなりの負担が強えられることとなる。
- ・同一施設を小中で使うため校庭や体育館図書館等施設の使用が十分にできない。
- ・1単位時間の設定の問題。小学校45分、中学校50分。休み時間小学校5分、中学校10分など

4 実施について、

小中一貫校を実施する場合、前回の学校再編検討会の内容も踏まえ、まず、無理なくできる、小中共通の学校目標の設置。小中学校の授業の乗り入れ（高学年における教科担任制など）。からスタートし、徐々に見直していく方向が良いのではないかと、急激な変更は、教師と子ども共に無理が出るように思う。